

編集  
協力

白川犬卒都婆地区中山間地域等協議会  
白石市農林課  
大河原地方振興事務所 農業農村整備部

平成十九年三月 発行

白川犬卒都婆集落の昔と今



白川犬卒都婆集落には子や孫に伝えたい伝統文化や歴史があります。ここに地元（白川郡）に伝えられてきた史実や伝統文化、現在の行事などを記します。

- 1 「犬卒都婆」の由来
- 2 六角地蔵
- 3 球状緑閃岩（菊面石）・尊田（とうでた）
- 4 羽山神社のゴンダチ
- 5 羽山信仰
- 6 羽山まつり
- 7 ホタル
- 8 川と生きもの
- 9 ミニライスセンター
- 10 コミュニティー事業
- 11 中山間直接支払い制度

## 参考文献

宮城県史  
白石市史  
刈田郡史  
安永御用書出

### 1 「犬卒都婆」の由来

説1 犬卒都婆の由来について、大昔、京都嵐山から来た人々がいて、小野篁（おののたかむら）が大いのししを退治した時、力をかしたまたぎの磐司・磐三郎（ばんじ・ばんざぶろう）兄弟の愛犬である白い犬をけしかけてイノシシを討ち取りました。残念なことに白い犬が亡くなりました。それで供養のためここに墓をつくったということから犬卒都婆という地名になったようです。

説2 前九年の役の頃（今から九百年以上の前）に、安倍貞任が、一時、源頼義を破りました。貞任は末弟の白鳥八郎則任を選んで柴田・刈田・伊具の三郡の有力者に従わせ、兼ねて源氏方の糧道を断とうとしていました。奥州にとどまっていた頼義は出羽国に使を出し清原氏に援軍を頼みました。清原武則は一万余騎をひきいて安倍貞任軍を破りました。貞任、貞則も戦死して前九年の役は平定しました。地方民は則任を埋めてこの碑を建てました。しかし、その墓が暴かれるのを恐れて犬の卒塔婆であると偽装してきた、といわれています。

説3 犬はお産が軽いところから昔の女性には「安産講」を組織して安産祈願のため犬卒塔婆を道ばたに建てました。形はY字形のもので二股になった木の枝を利用したものが普通でした。岩の上の犬供養石は巨大であるため、特に、有名になり村名まで発展したのではなからうかといわれています。江戸時代、このむらは角田の石川家の所領地でした。

地蔵は正式には、「地蔵菩薩」と言います。道ばたにあり、昔話にも良く出てくる仏様であることから、親しみやすい印象を受けますが、「観音菩薩」、「虚空蔵菩薩」と同様に非常に位の高い仏様です。人間を含めた多くの生き物（仏教では衆生と言います）は、6つの世界で輪廻（生死）を繰り返すと考えられています。これを六道と言います。この六道（6つの世界）は、天道、人間道、修羅道（しゅらどう）、畜生道、餓鬼道、地獄道があり、このそれぞれの世界での苦しみから救済されるように願い、はじめられたものが六道信仰です。地蔵菩薩は、それぞれの世界の入り口で、亡者を救済し、浄土に送り届けると信じられるようになり、寺院や墓地の入り口に六体の地蔵を立てるようになりました。これがさらに民間に広く浸透し、むらや集落の入り口に設置され、道しるべや境界の意味も持つようになりました。

六角地蔵は、その六体のお地蔵さんを六面に彫り込んだ非常に効率の良いスタイルですが、このような六角地蔵は全国で見られます。近くでは村田町桜内、蔵王町小村崎、七ヶ宿町横川などでも見られます。

## 1-1 中山間地域等直接支払制度

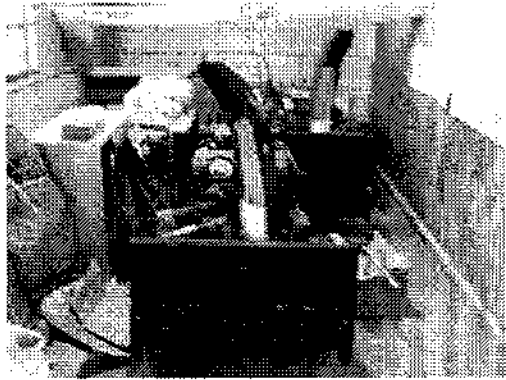
前期対策（平成12年～16年）、新規対策（平成17年～21年）実施されており、農業生産条件が不利な状況にある中山間地域等における農業生産の維持を図り、遊休農地をつくらないこと、多面的機能を確保するために制度が作られました。犬卒都婆集落では、前記ならびに新規の対策を受けて活動してきました。

中山間地域とは、平野の外縁部から山間地を指します。

山地の多い日本では、このような中山間地域が国土面積の69%を占めています。

また、耕地面積の42%、総農家数の43%、農業産出額の38%、農業集落数の50%を占めるなど、我が国農業の中で重要な位置を占めています。中山間地域は流域の上流部に位置することから、中山間地域の農業・農村が持つ水源かん養、洪水の防止、土壌の浸食や崩壊の防止などの多面的機能によって、下流域の都市住民を含む多くの国民の財産、豊かな暮らしを守っています。

小学校への通学路や集会所の除雪に利用する除雪機やお祭りで使用するポップコーン機、わたあめ機、集会所の流し台、ホワイトボード、大綱、ガスコンロ、ブルーヒーター、座卓を購入しました。また、宮太鼓の張り替えをしました。



コミュニティー事業で  
購入した除雪機



コミュニティー事業で  
購入した「わたあめ機」、  
「ポップコーン機」

### 3 球状閃緑岩（菊面石）・尊田（とうでた）

球状閃緑岩「キュウジヨウセンリヨクガン（菊面石）（キクメンセキ）」深成岩の一種。石一面に菊の花が咲いたように見えます。大正十二年に白石市の文化財に指定されています。この球状閃緑岩の球は、粘板岩から成り、その中に長石、石英、雲母、角閃石がはいっておりますが、球状になった原因は未解明のままです。

文禄四年（一五九五）、約四〇〇年前、宮の沢屋敷（古在屋敷）に住む平右衛門・安右衛門が田んぼにネギの花が咲いた夢を三晩つづけてみたので、掘って見たところ八畳間ほどの三枚の田んぼの中から菊の模様のある立派な石を掘りあてました。御神体として菊面石神社（片切明神社）を建立しました。

この田んぼは尊田（とうでた）といい、現在、大野雄吾さんが耕作しています。神田なので、動物性堆肥（牛糞堆肥等）を使用せず、籾・わら・ぬか等を使用しています。香米（かおりまい）という特殊なお米だけをつくっています。昔は女性はくちにできなかつたそうです。また、同家ではいまでもネギを作らないそうです。

## 4 羽山神社のコンダチ

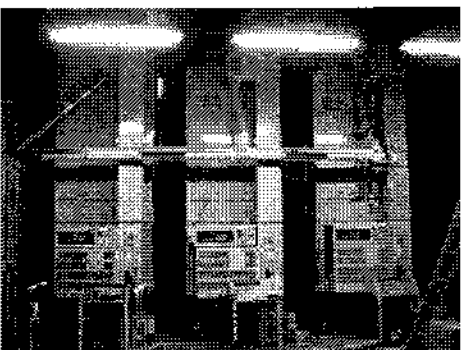
重要無形民俗文化財に指定されています。文化財の特色として、数え7歳の子供が羽山神社の奥宮に一升の餅(7つに分けた餅)を背負って登山し、成長を感謝、祈願する行事です。この行事は、白川犬卒都婆で、毎年11月8日の羽山神社の例祭に行われます。

7日には参加する子供と父親が親戚や近所に挨拶をし、夕方から子供の家で祝宴が開かれます。翌8日は早朝4時頃から父親や親戚に付き添われた子供たちが奥宮に登り、奥宮でお祓いを受けた後、持ち寄った料理を振る舞い合い、夜が明ける頃下山します。下山すると親戚などにお礼回りをした後、家に親戚や近所の人たちを呼んで祝宴が行われて行事が終わりです。この行事は、東北地方に広く見られるお山がけとか七つ児参りといわれる生育儀礼の一つです。

犬卒都婆の国道一一三号線沿いに高さ209mの権現山がありました。二十年前に採石場になり、山頂から南面一体の岩盤は昔の形跡は不明です。頂上には、採石場になる前は羽山権現社が祀られていました。『風土記御用書出』には大同四年(809)坂上田村麻呂勸請と記されている古い神社です。権現山頂は麓から80mと高いところにあるので、安永六年頃、通常は本尊は置かれず、厚枝屋敷の金十郎の屋敷内に仮宮があり、いつも御神体を安置しておきました。11月7日の晩に奥宮に移し、祭りの終了とともに仮宮に残される形式は、今でも残っています。昭和45年に国道をへだてた山の上に移されました。

## 9 ミニライスセンター・収穫乾燥・共同作業

平成18年に、犬卒都婆公会堂前、元JA倉庫(集落共有地)に乾燥調整施設を導入しました。35石2台、40石1台とすり機等1式と、乗用コンバイン3条刈り(PS)です。刈り取りは9月23日から7haを刈り取りました。乾燥調整は概ね700俵を受託しました。受託料金について、白石市農業委員会で定めている金額の25%引きで設定しています。

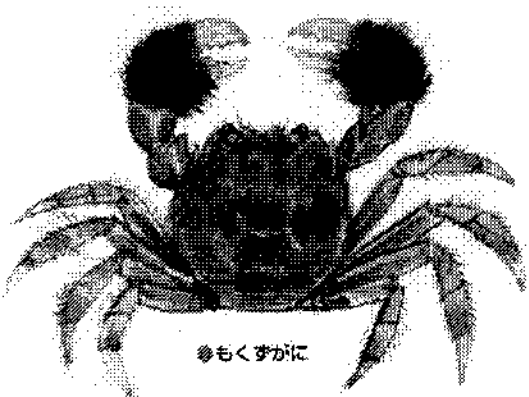
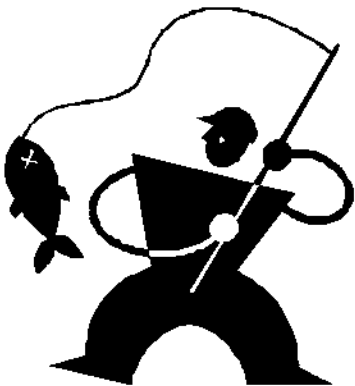


購入した乾燥機



購入したコンバイン

白石川の支流である高田川が集落のなかを通っています。昔は、ふな・うなぎ・こい・はや・やまめ・なまず・ジグ・カマピス・ヤツメ・オイカワ・スナモグリ・ドジョウ・カマク・ラエビ・カワエビ・モクスガニなどの魚類が生息していました。いまは、護岸工事などでモクスガニは少なくなりました。また、マゴタロウムシなどは市内でも見られますが、ここでも七月頃になると確認することができません。



もくすがに

5 羽山信仰

羽山信仰は東北に見られ、葉山、端山などと表記されますが、奥深い山ではなく、山の端、里山で、村人の生活と密着して信仰されてきました。農業の神、作物の神を祀っています。また祖霊の棲む山で、子孫を見守ってくれる山でもあります。少彦名命（すくなひこなのみこと）が祭神のことが多いようです。

中山間地域等直接支払前期制度を契機に始まったお祭りでは、平成18年で6回目となりました。メイインイベントである白川小学校6年生による『ぶちあわせ太鼓』と『南中ソーラン(踊り)』が披露されました。ぶちあわせ太鼓は小畑会長がPTAの役員をしているときに宣教大の先生に教えていただき、小学校に三十年間以上もの間受け継がれています。

11月5日(日)に羽山祭を開催しました。集落内外から概ね五百人程度の参加がありました。多くの方々に協力いただき、無事、盛会裏に終了しました。焼き鳥、綿飴・ジュース類・焼きそばなどの出店を集落の方々が協力して運営してくれました。また、お餅や芋煮が振る舞われました。これは女性の方々に協力いただきました。メイイベントである白川小学校6年生による『ぶちあわせ太鼓』、『南中ソーラン』が午後2時から披露され、さらに盛り上がりました。練習の成果が発揮され、迫力のある太鼓と踊りでした。『ぶちあわせ太鼓』は三十年くらい前に、宣城教育大学の先生から教えていただき、白川小学校にこれまでの間、受け継がれてきました。くじ引き大抽選会も好評でした。

平成18年犬卒都婆新聞第2号より

## 7 ホタル



ホタルにはゲンジボタル、ヘイケボタルがあります。犬卒婆のノ沢地区ではヘイケボタルが生息しています。ホタルの生息する環境は次のような環境が整っていることです。

- ・きれいな水
- ・ホタルの幼虫が隠れるための小石がある川底。
- ・ぬれて川岸。
- ・幼虫の時期にとまれる草木。
- ・川に力ワニナが豊富に繁殖していること。